

第15回 天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会 第19回 鳥取県中部地区流域治水及び減災対策協議会

議事概要

1. 日時：令和8年6月1日（月）14：00～15：30
2. 場所：倉吉河川国道事務所 1階第1～3会議室（一部オンライン会議併用）

3. 議事内容

- (1) 令和8年度の出水期の天候の見通しと気象情報の改善について（気象庁）
- (2) 一級河川天神川水系の減災にかかる取組方針の見直しについて（国土交通省）
- (3) 県管理河川における令和7年度、令和8年度の減災に係る取組について（県）
- (4) 二級水系流域治水プロジェクトについて（県・倉吉市・三朝町・湯梨浜町）
- (5) 情報提供

4. 会議概要

第15回天神川水系大規模氾濫時の減災対策協議会、第19回 鳥取県中部地区流域治水及び減災対策協議会を合同開催した。

本会議では、国の減災対策協議会として、事務局から第三期の取組方針案について説明し、承認を得た。県の流域治水及び減災対策協議会では、減災に係る取組と流域治水の取組に関する報告を行った。また二級流域治水プロジェクトの取組について、倉吉市、三朝町、湯梨浜町から事例紹介を行った。

情報提供として、鳥取県河川課より雨水貯留タンクの取組状況と、設置にかかる助成事業の紹介と、秋に開催する「ぼうさいこくたい2026」の紹介を行った。

5. 議事概要

（1）令和8年度の出水期の天候の見通しと気象情報の改善について

鳥取地方気象台より6月から夏季にかけての中国地方における気温と降水量の見通し及び5月29日から運用が開始される新たな防災気象情報の概要について説明した。

鳥取県より新たな防災気象情報の運用に伴い、県管理河川（洪水予報河川、水位周知河川）においても氾濫発生水位を新設し、レベル5氾濫発生情報を発表することを説明した。なお、水位周知河川の氾濫発生水位は6月中に設定予定としている。また、県管理河川の水位情報に対する警戒レベルを国管理河川と同様の警戒レベルに見直すことを説明した。

（2）一級河川天神川水系の減災にかかる取組方針の見直しについて

倉吉河川国道事務所より第3期取組方針の改定方針、今後5か年で重点的に取り組む項目の設定方針について説明され、関係機関より異議はなく、天神川流域の減災に係る取組方針（第三期）は承認された。

（3）県管理河川における令和7年度、令和8年度の減災に係る取組について

令和7年度の主な実施状況及び令和8年度の主な実施予定として、鳥取県から以下の項目について説明した。また、今年度は県の減災対策協議会として第二期の最終年度にあたるため、年内で完了した事業や継続する取組を整理した上で、第三期の取組方針を策定することを周知した。

質疑応答

質問：湯梨浜町

小学校における防災学習は鳥取県全域で行っているのか。

回答：鳥取県河川課

防災教育については、各地区で取り組んでいる。協議会の資料には、中部県土の取組を掲載している。要請があれば、小学校だけでなく地域団体へも、説明に伺うため、問い合わせさせていただきたい。

質問：倉吉市

中部管内では、令和 8 年度の河道掘削はどこを予定しているのか。

回答：鳥取県河川課

掘削予定箇所を事務所に確認して、改めて各市町へ説明する。

⇒樹木伐採は鳥取市玉川、絵下谷川、琴浦町月の輪川を予定

河道掘削は、琴浦町の洗川を予定している（会議後回答）

（４）二級水系流域プロジェクトについて

鳥取県より流域治水プロジェクトの概要を説明し、令和 7 年度の取組としてプール貯留の事例を紹介した。

また、二級水系由良川外流域治水プロジェクトでは田んぼダムを取組範囲の見直し・追加を行い、流域治水プロジェクトを更新したことを報告した。今後も新規の取組があれば随時流域治水プロジェクトへ追加・更新していくことを周知した。

□各委員からの主な説明は以下の通り。

【倉吉市】

- 倉吉市として 2 台目となる排水ポンプ車を導入した。従来は可搬式ポンプの設置に半日程度かかっていたが、排水ポンプ車により約 1 時間に対応可能となった。令和 5 年 8 月の台風第 7 号の際には、国交省から 2 台借用して計 3 台で対応し、内水氾濫の防止に大きく貢献した経験から、鳥取県に対しても中部地区への排水ポンプ車の配備を要望していた。
- 排水路の監視カメラを令和 7 年度に 4 箇所、令和 8 年度に 4 箇所設置し、職員が現地に行かずとも遠隔で水位を監視し、迅速な対応が行えるようになった。現在、カメラ映像は非公開であるが、国や県と情報共有を図るよう、今後取り組んでいきたい。

【三朝町】

- 町内 6 つの地域協議会を主体とした防災対策や避難所運営等の訓練を実施している。地域の支え愛マップの作成は 15 集落で完了し、現在 6 集落で着手しており、それに併せて防災出前講座、小中学校の防災教育を実施している。また、水防対策の要となる消防団では、消防団 DX アプリ「コミュたす」を運用し、被災状況の写真や動画を共有することで関係機関との連携を深めている。
- 今後の減災に向けた対策として、令和 5 年の台風災害で役場周辺が浸水したことを受け、大瀬地区の排水処理対策（仮設ポンプ設置）の検討、平時からの樋門の管理・操作等の情報共有を進めている。

【湯梨浜町】

- 東郷池周りの浸水対策として、鳥取県による護岸嵩上げ等の効果が出ている一方で、それに伴う内水対策が重要となっている。現在、新町川排水機場の整備が進んでい

るが、令和 9 年度以降に排水機場に水を集めるための町道・側溝の整備についても県に協力をお願いしたい。

- ソフト面では、平成 19 年度から総合防災訓練を実施しており、避難訓練や炊き出しのほか、令和 7 年度は専門家（山村武彦氏）を招いて防災講演を行い、多くの住民に参加いただいた。また、防災特別対策官を配置し、初動対応や災害時の行動についてきめ細かい指導を行っている。

【鳥取県】

- 「支え愛マップ」作りの支援や、市町村の行政界を越えた事前の広域避難の取組について引き続き検討を進める。
- 田んぼダム取組の広がりと、令和 7 年度は新たに 10 地区追加された。ため池については、ハザードマップの作成、監視カメラや水位センサーの設置、スリット化による事前放流施設への改築などの取り組みを紹介した。
- 防災フェスタや総合防災訓練といったイベントや FM ラジオを通じた流域治水の啓発活動を実施している。
- 手動式樋門の操作員の負担軽減と迅速化を目的として、電動ドリルを用いた省力化をすすめており令和 8 年度で計画箇所は完了予定。

【鳥取地方気象台】

- 住民の水害に対する心構えと防災知識の普及を目的として、防災気象講演会を開催した。また、倉吉市立図書館と連携した子供向けイベント「おてんきひろば」を実施しており、今年度も開催に向けて準備を進めているところである。

（５）情報提供・意見交換

①雨水貯留タンクの設置の取組

鳥取県から雨水貯留タンクの取組状況を報告した。これまでの設置事例に加え、住民からの要望の広がりを受け、令和 8 年度は市町村、県、個人がそれぞれ 3 分の 1 ずつ費用を負担する助成事業を予定していることを紹介した。

質疑応答

質問：湯梨浜町

これまでに雨水貯留タンクを整備した中で、具体的に良い効果を発揮した事例はあるか。

回答：鳥取県河川課

具体的な貯留効果の事例はないが、雨水貯留タンクの設置と合わせて防災学習を行うことで、避難に対する考え方など防災意識向上の面で貢献している。

②ぼうさいこくたい 2026 in 鳥取

鳥取県から令和 8 年 10 月 17 日、18 日に倉吉市で開催される「防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）」について案内した。